

スカウト おおい た

第52号

2018年10月20日 発行

日本ボーイスカウト大分県連盟

編集 県連総務委員会

第17回日本スカウトジャンボリー

『派遣団長の役割を終えて』

派遣団長 芳山 憲祐

三指

今年は7月から暑さがひどくなりこれまで経験したことのない暑さだと話題になってきた。

石川県珠洲市鉢ヶ崎で8月4日から7日間、第17回日本スカウトジャンボリーに大分県からスカウト36名、リーダー14人と共に13,300人が集う大会に参加した。

出発の時はどんな大会だろう、暑さのなか頑張り通せるだろうという不安な気持ちと、一方では新しいことに挑戦しようと心はずませているスカウト達でした。

私はスカウト達が怪我や体調不良などにならずに6泊7日を無事に終えることを願つての参加でした。リーダーの8人は一足先に現地に乗り込んでスカウトの受け入れ準備や、大会プログラム会場の設営に2日間あたり、8月4日にスカウトの受け入れと開会式にのぞんだ。

現地は北陸といえども昼間は36℃以上の真夏日が続いて熱中症が一番心配された。大会が始まると鉢ヶ崎のキャンプ場の1km四方は賑やかな街になった。

道行くスカウトは、挨拶を交わし課題に挑戦したり、自主的に計画してきたプログラムにチャレンジして交流の輪が続いた。8月6日の大集会には皇太子殿下が視察され、班旗立ての競技に取り組むスカウトの様子を見て回り、大集会ではお言葉を述べられた。スカウトは間近にみる皇室のお姿に感動をしていたようだ。そんな大会もあったという間の6日間



を終えていよいよ最終日の閉会式では、友達と夜遅くまで別れを惜しむ交流会があらこちで開かれていた。そして10日帰省の朝、バスの発着場に整列した全員のスカウト達の目はキラキラと輝き、この大会で体験したいろいろなことに、

また将来に向けた夢に次の大会にも必ず参加するぞと、そして大分に帰ったら、これまで以上にスカウト活動を楽しもうと心に決めているようにうかがえた。

この大会の開催に際しては、珠洲市が快く大会を受け入れて下さり、市の部局の中に「日本スカウトジャンボリー推進室」を設置しての多大なご支援を頂いた。地元の方々の挨拶にも大会への応援メッセージが込められ感激の思いでいっぱいになった。

キャンプ場内の公共のトイレや休憩施設などは24時間体制で管理されており、特に珠洲市の人口が13000人に対して、スカウト13300人が一気に増えたため排水施設が追いつかないので、会場内6カ所に約500トン程度の一時的な溜め枡を設置して処理能力に応じて必要量を排水しているとの説明を受けて驚いた。

このような大会が多くの方々の陰の力に支えられて開催できるということは、ボーイスカウトの活動が将来を担う子供達の成長に大きく貢献している活動として期待されているおかげであると思う。

大会期間中、「大分地獄おんせん隊」では少し気分が悪くなったスカウトはいたものの、大きな怪我もなく皆元気に大会会場から帰路につくことができましたことは、本当にありがとうございました。

残りの後片付けをし「感謝のみ残して」私も会場を後にしました。

弥栄





17th NIPPON SCOUT JAMBOREE

2018年8月4日(土)～10日(金) 石川・珠洲 りふれっしゅ村鉢ヶ崎

第17回日本スカウトジャンボリーが平成30年8月4日(土)から10日(金)までの間、石川県珠洲市の「りふれっしゅ村鉢ヶ崎」で開催されました。

大分県連盟から芳山派遣団長以下リーダー6名、スカウト36名、またスタッフ9名が参加、全国のスカウトと交流を深めてきました。



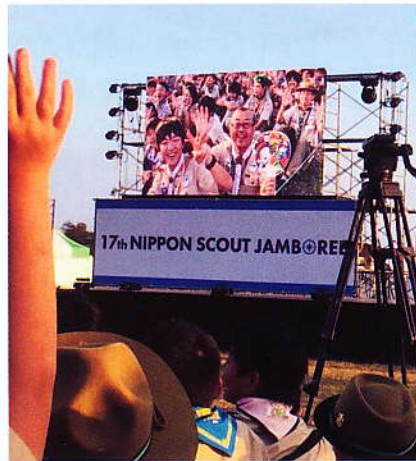
珠洲に向けて
出発!!

会場に到着・そして設営



いよいよ
開会式!!





大集会



毎日！毎晩！交歓会
全国の仲間たちと交流の輪を



閉会式

そして撤収!! テントも片づけてフライテントの下で
おやすみなさい



第17回日本スカウトジャンボリーを終えて 大分派遣隊長 後藤 秀之 三指

2018年8月3日に大分港をフェリーで出発し7泊8日の日程で、石川県珠洲市で開催された第17回日本スカウトジャンボリーへ派遣隊スカウト36名

(中学生31名、高校生5名)と途中交代を含むリーダー6名で参加してまいりました。大会期間中は天気も良く、雨は2日目の朝方のみで、猛暑の中、恵みの雨と感じられるものでした。

派遣隊長としての目標は、まず第一に「スカウトたちを安全に帰らせること」次に「スカウトたちに思い出に残る体験をさせてあげること」でしたが無事全員を楽しい思い出を胸に帰らせることができ、責任を果たすことができたと思っております。

5月と7月の連体にそれぞれ2泊3日の訓練キャンプを行った成果があらわれ、キャンプ生活も安全に行う事ができ、またプログラムとして参加した日本ゲームの火おこしでは全国2位、班旗立てでは全国5位という成績を残すこともできました。

キャンプサイトは「大分地獄おんせん隊」というネーミングとゲート、県からお借りした「日本一のおんせん県おおいた」の幟でかなり目立ったものとなり、現地でのジャンボリー新聞でも一番に取り上げられ、大分のPRもできました。

昼は毎回他県連の派遣隊とランチ会を、また、夜のプログラムがない日は、火の周りに集まり交歓会を行い、交流を行うことができました。6泊7日のキャンプ生活で、ちかいとおきての実践とともに、技能だけでなく、規律、チームワーク、役割、友情いろいろなものを身に付けてくれたものと思います。

参加スカウト達が、この経験を自隊に持ち帰り、参加していないスカウト達にも伝え、大分県連盟の今後の発展につなげてくれるものと確信しております。

最後に、参加に当たってご支援ご協力を賜った皆様方に厚くお礼申し上げます。

弥栄



足湯で
おんせん県を
アピール



大分の地獄へ
あそびにおいで



大分第9団ベンチャー隊 牧 優凛

8月3日から8月10日まで石川県珠洲市で行われた第17回日本スカウトジャンボリーに参加してきました。私は、広瀬連盟長にご挨拶にうかがった時に、交流会をたくさんしたいとお話ししました。その言葉の通り全日程を交流会で埋めてきました。打ち合わせやどんな内容にするかなどの話し合いでほとんど自分の時間はなかったですが、たくさんの事を学び、たくさんの人と友達ができ、よい交流になったと思います。

私は来年世界ジャンボリーに行くのですが、この日本ジャンボリーで学んだ事を生かして楽しい世界ジャンボリーにしていきたいと思います。



ミーアキャット班班長 大分第5団 仲東 真夢

「知っている人がいない」最初の派遣隊のイメージは、その一言でした。私に班長はできるのか。本番までどう打ち解けようか悩み、不安もあったけど四回の事前訓練を重ね少しずつ不安も解消され迎えた本番。会場に足を踏み入れ仲間と過ごした八日間。私は炊事が一番心に残っています。なかなか指示が的確に出せず時間通りにいかなくて悩んだけど班長達と会話したことで隊炊事も分担し、時間より速くでき、閉会式にも早く行けました。

最後に、こんな機会を与えてくださった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。



別府第9団ベンチャー隊 田原 香菜

オオカミ班班長 大分第2団 舩友 亮太
僕は、17NSJで班長という役割を頂き、普段の活動班と異なるメンバーを上手くまとめることができるか不安でした。

実際石川県のキャンプ場についてみると、想像以上のスカウトの多さに驚き、気が引き締まる思いでした。交流を通して、他県の魅力やスカウトの人柄の良さを感じると共に、大分の魅力を再発見できたと思います。班活動がスムーズになるとともに、班員の協力のおかげで6泊7日を楽しく過ごすことができました。

17NSJを通して、人をまとめることの難しさや、日頃の生活のありがたさを感じることができたので、これらの活動ではリーダーへの感謝や日々の生活に感謝することを忘れないようにしていきたいです。



第3回 全国防災キャラバン

9月2日、イオンモール三光で防災週間に合わせた「全国防災キャラバン」大分会場を開催した。

全国共通企画で、物や壁が倒れてくるときの感覚を安全に学ぶことができ、体験を通じて災害時の正しい行動を身につけることができる「ブロック積み上げゲーム」が特に人気で例年になく多くの子どもたちが体験をしてくれました。

日本ボーイスカウト大分県連盟では、これからも、地域の子どもたちと保護者に対して、防災について、いま一度考える機会、体験の場を提供していきます。



ブロックを積んで・・・
地震で倒れると?! 危険体感!!



イザという時の
ロープワークと救急法



各 団 活 動

津久見第1団

津久見第1団の団キャンプを、8月25日～26日に大友公園で開催しました。

今年のキャンプは、「防災への備え」と「BS活動のアピール」をテーマに市内の普通の公園で行いました。

それぞれの隊ごとに隊集会を行い、会場へ集合してみんなでカレー作りを楽しみました。夜は「つくみ扇子おどり大会」会場へ制服で出かけ、市内外の方々へアピールすることができました。



大分第9団

護國神社の森では、いつもスカウトの元気な声が聞こえます！

「猛獣狩りに行こうよ」と、ビーバー探検隊が慎重に進んでいます。



大分第5団

夏休み最後の日。ビーバー隊は秋の野草 cooking。高尾山を散策しながら野草のお勉強。

野草ピザ&だんごを作り、自然の力を身体で感じたビーバーさんでした。



大分第2団

9月の第三月曜日は「スカウトの日」！

今年の大分第2団は「災害復興支援の活動」として、9月16日に北海道地震の義援金募金を行い、ビーバー、カブ、ボーイ、どの年代も大きな声を出して呼びかけができました。

2団の募金は12月の寒い中で行うイメージがあったので、9月の暑い中行う募金は新鮮でした。



大分第1団

9月16日(日)スカウトの日の団行事を実施しました。まず上進入隊式で上進のお祝いと新しい仲間の歓迎を行い、いつもお世話になっているしあわせの丘グ



ラウンドの清掃活動にみんなで取り組みました。その後バーベキューを行い団の親睦が深まる初秋の楽しい行事となりました。



由布第2回

由布第2回ボーイ隊は、平成30年9月22日(土)～24日(月)の2泊3日の日程で、「陣屋の村キャンプ場」(由布市挾間町鬼瀬)で、夏季キャンプを行いました。

夏季キャンプでは、テント設営から、立ちかまど作りや、楽しいハイキング等を行いました。

また、「第17回日本スカウトジャンボリーゲーム日本一ロープ結び(班旗立て)」にも挑戦しました。

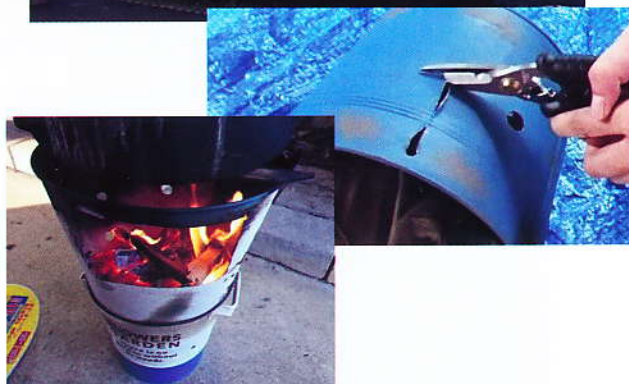


杵築第1回

本年度は、スカウトのニーズで色々な燃料やカマドを使って野外調理にチャレンジしています。

空き缶コンロでサバ飯体験をした際に、自作したカマドでの調理ニーズが高まりました。キャンプの前にリーダー指導のもと、バケツでカマドを製作し、キャンプでは自作のカマドで毎回の食事を作りました。

杵築の地元にあるキャンプ場をお借りして、楽しいキャンプとなりました。



別府第9回

8月末、ビーバーはデイキャンプ、カブ・ボーイ・ベンチャーは1泊2日でキャンプを行いました。

営火ではカブの親子・リーダーが「気志團」に扮してダンスを披露。その後はボーイが宇宙人ゲームを行い、大変盛り上がりました。キャンプ中、17NSJから戻った4名のスカウトがきびきびと動き、他のスカウトたちを引っ張っていく



姿に、成長と頼もしさを感じました。

進級章〔菊章〕交付

菊章を取得された方々です。
誠におめでとうございます。

菊章

仲東 真夢 大分第5団
御手洗 拓真 大分第5団



県連盟 今後の予定

- 11月 3日(土) 技能オリンピック
- 11月 11日(日) 第5回カブフェスティバル
第5回ビーバーフェスティバル
- 1月 13日(日) 団委員長会同
新春交流会

※ 来年(2019年)、8月8日(木)～12日(月)までの4泊5日、久住高原沢水(そうみ)キャンプ場で日本ボーイスカウト大分県連盟の75周年記念野営大会を開催予定。みんなで参加しよう!